

平成30年度 第3回 泉佐野丘陵地緑地 運営審議会 概要版

日時：平成30年12月13日（木）14:00～17:00

場所：泉佐野丘陵緑地 パークセンター

◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学 特認教授 増田昇（会長）

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 代表 那須利之

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副代表 久住和茂

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 事務局長 大家清信

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

うみべの森を育てる会 代表 西台幸子

大輪会事務局 野田一雄

◆欠席委員

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 加我宏之

和歌山大学 システム工学部 教授 宮川智子

和歌山大学 システム工学部 准教授 佐久間康富

泉佐野市都市整備部 部長 藤基忠興

◆傍聴者 なし

◆概要

1. 現地確認（東地区） 14:00～

2. 前回のふりかえり 15:00～

3. 協議案件 4件

①中地区10年間の整備・活動内容の振返りについて

②東地区基本設計修正及び園路実施設計について

③コトまっふ（平成31年度版）について

④今後の運営審議会の開催について

4. 報告案件 4件

①プログラム報告（9～11月）、パーククラブ活動計画（12～2月）

②えんづくりプログラムの実施結果・審査結果について

③東地区の薬剤注入竹林（秋注入）について

④その他

＜前回のふりかえり＞

事務局より説明。

＜協議案件1：中地区10年間の整備・活動内容のふりかえりについて＞

事務局より説明。

- ・植生の変化や竹林が減ってきたことなどの変化を明示すると、よりわかりやすくなる。
- ・「整備」という概念が違っている。植生管理をやってきたということが最も大事である。今回の図面は植生管理については見えないので、それもわかるとよい。今の図面では、まだ従来型のハード整備の経緯である。
- ・木というのは竹も含めて考えなければならない。竹林にも手を加えてきたということも、木を切ってきたことに含まれる。また、切らないと決めたことも重要な植生管理の方針である。全体的な植生管理については運営審議会でも議論しながら今に至っている。
- ・プログラムの整理に関しては、開園前からの情報も整理してほしい。開園前から府民参加が進行しているということがこの公園の売りである。開園後のデータだけでは趣旨が損なわれる。
- ・公園を自己実現の場ととらえた時に、ゲストではなくホストとしての参加をどう誘発することができるのかが論点となる。例えばパーククラブの健康寿命が伸びた、というようなことが言えないか。公園の利用効果というのは、使う人にとっての効果もあるとよいが、ホストとして活動することによって健康寿命が伸びるといことが実証できないかと考えている。そうすると投資効果が見える。
- ・他の公園では完成像に基づいてボランティアに手伝ってもらうような方法が多いが、この公園は完成像を示していない。やりたいところから少しずつ手をつけていくという方法で進めてきた。
- ・木の一本一本も含めて全面的な植生管理を徹底している公園もある。しかしここは人間が生活しながら少しずつ手を加えて更新してきた里山であり、その更新方法は試行錯誤していきしかないので、その方法について積極的に議論する場が運営審議会である。

<協議案件 2 : 東地区基本設計修正及び園路実施設計について>

- ・事務局より説明。
- ・東地区の理念と目標像については、運営審議会ですらに議論していくべきである。また、植生管理をどうしていくのかを考えなければならない。道と広場とトイレの話だけではない。例えば竹林の抑制のみを行い、その周辺を少し変えていくようなイメージなのか。竹林の抑制のみ行えばよいのか、林の密度を変えていかなければならないのか。枯木の周囲の半径 5メートル程度の植生をどのように管理しなければならないのか。本当はそのような議論をしなければならない。
- ・東地区は既に竹への薬剤注入実験も進めきたので、そのことも含めて植生を考えなければならない。また例えば、今日歩いた舗装道路の両側から木が倒れてきていたが、その処理方法を検討できることはチャンスである。早い段階から目標像を考えておくとよい。
- ・海外から桜を見に来る人が増えている。泉佐野にはこの公園も含めて山桜などを楽しめる場所があるので、それを海外から来た人に楽しんでもらう仕掛けをすることができるとよい。
- ・パーククラブは中地区の経験者として、東地区については自由にアイデアを述べてほしい。
- ・大阪府に提案がないと感じるならば、むしろそれをチャンスと捉えて、パーククラブからも提案してほしい。
- ・お金がないから作業の一部をボランティアに担ってもらおうという考え方ではない。新しいものをつくることや、自分たちがつくったもので府民に喜んでもらうことをモチベーションとして活動に取り組んでもらいたい。
- ・10年後を考えた時に、パーククラブが存続していくかどうかはわからない。しかしそのことを今の役員だけが考えなければならないという責務を負うべきとは思えない。この運営審議会でも、そこに踏み込んで助言をいただきたい。
- ・10年という節目なので、それについては徹底的に議論すべきである。目標像や植生管理方法をこちらから提示することは簡単である。それを労働管理のように進めていくことは、まったくおもしろくない。
- ・もし今、パーククラブの存続について最も悩んでいるのであれば、それを議題のトップに具体的に出してほしい。
- ・パーククラブから大阪府に、これまでの10年の総括について話し合いたいと提案している。そこに審議会のメンバーからも意見をいただきたい。現状のパートナーシップを否定しているのではなく、あくまでも、存続させていくにはどのような方法があるのかを議論したい。

以下の議題については、今回の運営審議会では省略された。

協議案件 2件

- ③コトまっぷ（平成 31 年度版）について
- ④今後の運営審議会の開催について

報告案件 4件

- ①プログラム報告（9～11月）、パーククラブ活動計画（12～2月）
- ②えんづくりプログラムの実施結果・審査結果について
- ③東地区の薬剤注入竹林（秋注入）について
- ④その他

以上